

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 1月 22日

事業所名 はっぴい西宮北口

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		法令を遵守したスペースを確保している。	以前はプレイルームで学習するお子さんもいたが、学習室で学習することを徹底してから活動がすっきりした。
	2	職員の配置数は適切である	○		法令に基づく資格者の人員配置と加配の配置。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		廊下から室内に入るのに段差があるので、プレイマットを敷き、緩和している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の打ち合わせ、終礼の中や週1の会議の中で職員は積極的に参加している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		本年度はリタリコの研修を主に、事業所内の年次研修も行う。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者様との面談(アセスメント)の時期が遅れがちだが、ほぼ半年に1回、計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		役割を決めて、立案し、会議で話し合う。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		項目としては、SST、体操、製作、おやつ作り、ミュージックケア、外出とあり、それぞれの内容を変えるように工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は学習(宿題等)の支援、SST、体操、製作、おやつ作り、製作、ミュージックケア、はっぴいタイム(フラッシュカードやカルタ)等の活動、長期休暇には、外出プランを多く取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		主に学習(宿題等)の支援は個別に行っている。その日の活動は集団で行うことが多い。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		始業前の打ち合わせで確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼にてその日行われた支援、子供さんの様子についても、情報を共有化し、日報にてその日の勤務者以外にも共有化している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録は個別記録に記録し、支援の検証、改善については、会議にて話し合う。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回のモニタリングと、計画の見直しを行っている。(遅れる場合あり)		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が支援会議に参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		てんかん、熱性けいれん等の可能性のある子供さんには主治医の指示書をもっている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		支援会議に幼稚園の先生が来られ、情報共有したことがあるが、それ以外はありません。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		学校卒業後、障害福祉サービス事業所に、直接情報提供はしていないが、本人中心支援会議に参加し、支援の引継ぎをしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修の案内や受講の促進をして、希望者が受講できるようにしている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		不定期だが、地域の「むつみ児童館」を利用させてもらっている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳でやり取りしたり、送迎時や電話で話し合い、共通理解に徹する。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		面談時に話を聴いてアドバイスする他、お困りごとに関しては、随時電話や送迎時にも対応する。保護者様が参加できる講座や、研修の案内チラシを配布している。	9/25に初めてのペアトレを実施しました。参加された方は、子どもとの関わり方を考えることが出来、他の保護者様との交流も出来て良かったとの感想でした。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学时、または契約時に丁寧に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談時に話を聴いてアドバイスする他、お困りごとに関しては、随時電話や送迎時にも対応する。	個別支援計画書の見直しの時に面談を行うようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		「父母の会」という形にはなっていない。懇談会や、親子行事、ペアトレ、スライド上映会の開催により、連携支援をしている。	平日の午前実施するため、参加が出来ない保護者様がおられるが、土曜日祝日の実施は難しい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情に対する対応は、管理者、代表を交えて検討し、対応している。	苦情に対し、間違いは間違いとして明らかにし、誠意を持って対応するように心がけています。スタッフ間の情報共有は苦情要望受付書、日誌にて申し送ります。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回、「通信」を発行し、行事予定や連絡ごとをお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		連絡帳に他児の個人名を記載しないほか、勝手に個人情報を伝えないようにしている。職員の守秘義務の徹底。	個人情報管理の甘さのご指摘を頂き、事業所としての「個人情報書類の取り扱い」に関する取り決めに保護者様に周知いたしました。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		発語の無い子供さんに、ホワイトボードに写真を貼って示してもらおうのを準備したが、定着していない。	予定が変わる場合に保護者様に分かり易いように伝えるようにしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時、災害、感染、防犯マニュアル策定。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	避難訓練と災害伝言板ダイヤルの実技体験を実施したが、定期的には行っていない。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止の研修実施。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	医療的配慮から身体拘束を行う必要がある利用児はおられません。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者様からの情報により、禁忌食品を与えない配慮は徹底している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故報告書を作成して共有している。	